白神へいざない、津軽の風景に溶け込み、地域の誇りをつむぐ道　津軽ダム付替道路

トンネルと橋の名称が決まりました

主要地方道岩崎西目屋弘前線（白神ライン）は弘前と白神山地を結び、旧岩崎村（現深浦町）へ至る道として古くから利用されていました。津軽ダムの整備により、道路を水没しない高さに新たに作る必要があり、「白神へいざない、津軽の風景に溶け込み、地域の誇りをつむぐ道」をテーマに付替道路の工事を進めています。一部区間が７月に開通するのに先立ち、トンネル（３箇所）と橋梁（６橋）の名称を募集したところ、地元西目屋をはじめ県内外から 141 通の応募をいただきました。「津軽ダム付替道路トンネル及び橋梁名称選考委員会」（委員長：弘前大学北原啓司教授）は 4 月 25 日（水）に弘前文化センターにて選考会を行ない以下の通り名称を決定しました。「ダムに水没する砂子瀬・川原平の人々の暮らし」をテーマに、水没する地名、古い地名から名づけた案です。なお、７月 25 日の開通式には入賞者を招待し、表彰する予定です。

■名称選考のスケジュール

2月２８日	第１回名称選考委員会（選考方法の確認）
3月１日～３１日	名称の公募
4月２５日	第２回名称選考委員会（名称決定）
5月～６月	銘版製作
7月２５日	開通式にて表彰の予定

■津軽ダム付替道路トンネル及び橋梁名称選考委員会

佐 藤 孝 忠	居森平代表
佐藤ふじ子	砂子瀬代表（田代在住）
北 原 啓 司	弘前大学 教授　※委員長
土　岐　司	白神山地解説活動連絡協議会 会長
水 戸 光 宣	NPO 法人コミュニティネットワークキャスト 理事
関　和　典	西目屋村 村長
藤 本 正 雄	青森県中南地域県民局地域整備部 部長
山 田 直 文	環境省東北地方環境事務所西目屋自然保護官事務所自然保護官
阿 部 幸 雄	国土交通省津軽ダム工事事務所 所長

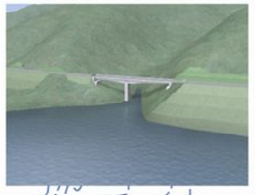
大川白神橋（おおかわしらかみ）
●1 号 橋



美山橋（みやま）
●2 号 橋



川原平橋（かわらたい）
●3 号 橋



砂子瀬橋（すなこせ）
●4 号 橋



湯ノ沢トンネル（ゆのさわ）
●1号トンネル



山神平トンネル（やがみたい）
●2号トンネル



木戸ヶ沢橋（きどがさわ）
●5 号 橋



寒沢トンネル（さむさわ）
●3号トンネル



河鳥橋（かとり）
●6 号 橋





名称のテーマ

選考委員による予備投票の結果、141 作品のうちテーマ、ストーリーと名称の組み合わせが優れた 8 作品が最終選考に残りました。この中から、最優秀賞となった佐藤さんの「ダムに水没する砂子瀬・川原平の人々の暮らし」をテーマとした作品をもとに、趣旨の近い他の作品の名称を組み合わせ、最終的に９つの名称を決定しました。

「砂子瀬・川原平の人々の暮らしはここから始まった。移転者の私達は、白神の名を残したい。目屋ダム、2 度目のダム。集落が沈む。砂子瀬集落がこの下でねむる。その軌跡を残す為にも。今なき里をしのんでも静かに眠る水の底　まぶたに浮かぶふるさとを夢ではるばるたずねみる、あぁ思い出の砂子瀬恋し」（最優秀作品に寄せられたテーマより）

最優秀賞　佐藤義則　様（弘前市）

優秀賞　工藤 和久 様（弘前市）　佐々木 英治 様（弘前市）　工藤 セツヱ 様（西目屋村）
鎌田　桂 様（弘前市）　平賀 富男 様（西目屋村）
富増 義教 様（弘前市）　工藤 久幸 様（西目屋村）

問合せ先
国土交通省東北地方整備局　津軽ダム工事事務所（担当：工務課　工藤、福原）
電話：０１７２－８５－３００７　mail：kudou-t82ae@thr.mlit.go.jp
fax　：０１７２－８５－３０１６　fukuhara-t82ac@thr.mlit.go.jp

■津軽ダム付替道路これまでの取組み

津軽ダム工事事務所では、県道岩崎西目屋弘前線の付替道路の整備にあたり、
地域のみなさんと一緒に、環境と景観に配慮した取り組みを継続的に行なっています。
今回のトンネル・橋梁の名称の公募と決定も、こういった取り組みの一環です。

平成16年度　●景観形成方針の検討

2004 年

・景観形成の目標像を「白神へいざない、津軽の風景に溶け込み、地域の誇りをつむぐ道」とするなど、良好な景観を有する津軽ダム付替道路のあり方がまとめられました。



津軽ダム付替道路景観形成の目標像

平成17年度　●懇談会による景観の検証と評価

2005 年

・弘前大学・北原啓司教授を座長に、住民、地域活動リーダー、地元自治体、関係機関などから13名に参加いただき、3回の懇談会を開催しました。
・懇談会では、付替道路の建設によって形成される景観を予測し、評価を行なう「景観アセスメント」を実施しました。
・この結果は、「津軽ダム付替道路　景観形成ガイドライン」に取りまとめられ、設計・工事に反映されてゆきます。


景観検討懇談会では現地でも景観を検証

平成18年度　●ワークショップによる案内看板･眺望箇所の検討

2006 年

・前年度の懇談会において地域との連携が強く求められた、案内看板（サイン）、眺望箇所（ビューポイント）についてワークショップによる検討を行いました。
・これまでの懇談会の参加者に加え、道路を管理する県庁の担当者、弘前大学で住まいやまちづくりを学ぶ学生などが加わり、岩木山を望むビューポイント駐車場のレイアウト、サインによる来訪者への情報提供などをまとめました。
・このなかで、トンネルや橋梁の名称も「白神へいざない、津軽の風景に溶け込み、地域の誇りをつむぐ道」にふさわしい、一貫性のあるものが求められました。


ワークショップ開催のようす

平成19年度　●名称の公募、一部区間の開通

2007 年

・今後整備予定の箇所も含め、3つのトンネルと6つの橋梁について、一貫したテーマのある名前を広く募集しました。
・前年度のワークショップの結果をもとに、サイン・ビューポイントについて詳細の設計を進め7月の開通にあわせ、一部が実現します。


ワークショップでは岩木山を望むビューポイント駐車場のレイアウトなどを検討

■名称公募のスケジュール

2 月 8 日	古老への取材	マタギなど地域をよく知る古老に、ネーミングのヒントとなるエピソードを聞き取り調査により取材。（於：津軽ダム工事事務所）
2 月 28 日	第1回委員会開催	委員長の選出、趣旨･検討内容･スケジュールの確認と意見交換。リーフレット表現の修正、表彰式を開通セレモニーとあわせ実施することで調整を図る旨を決定。（於：弘前文化センター）
3 月 1 日～ 3 月 31 日	名称の募集	3月1日記者発表。同日よりリーフレットを配布、津軽ダム工事事務所ホームページにおいても告知。
4 月 1 日～	応募案の取りまとめ	第2回委員会における審査にむけて、事務局にて応募案のとりまとめを実施。
4 月 25 日	第2回委員会開催	応募案の中から、トンネル（3 箇所）、橋梁（6 橋）の名称を決定。（於：弘前文化センター）
5 月	銘版の製作	決定した名称にもとづき銘版を作成。
7 月 25 日	表彰式（開通式）	名付け親を開通式に招き、一連のセレモニーのなかで表彰式を行なう。

■応募状況

応募作品数：１４１点
応募人数　：１３０人

